

団体名:ナゴヤ SUP 推進協議会

活動名:川も(川面)探検隊

日時:令和元年 11月16日(土) 9時00分 ~ 12時00分
場所:天白川沿岸(星宮公園付近:南区星宮町149)

■団体の紹介■

ナゴヤ SUP 推進協議会の活動は、SUP (Stand-Up Paddleboard) の普及、活用を通じ、水辺の利用促進を目的としています。SUP とは、ハワイ発祥のウォータースポーツで、ボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進んでいくアウトドアアクティビティです。そんな SUP を使用し、まち歩きのように川辺を探索するのが「川も(川面)探検隊」の活動です。治水の重視や水質の悪化などによって、川から離れてしまった人々に親しんでもらいたいという思いからこの活動を始めました。

■活動の内容■

この日の活動は、南区の星宮公園付近の天白川沿岸にて、男女合わせて9名が参加しました。冒頭に、団体の水質調査担当・藤井氏が「都市の水は、良質化しているが、川への親しみが持たれていない。関心を高めていきたい」とあいさつしました。

川辺での探索は、SUP に乗る「川班」と、マップを片手に堤防側から川辺やまちを観察する「陸班」に分かれて、行いました。「陸班」に参加したメンバーは、川の水質や生き物、堤防の草の手入れ具合、堤防から川につながる階段の整備状況などを確かめていきます。「ボラが多い」「川辺の家は古い家が少ない。以前、堤防が決壊したことがあるのでは」「天白川は、水がきれいなので、食物連鎖が豊かになり、生物の種類が多いはず」「堤防下の公園につながる階段は、整備されている。公園と川の管理部署が連携しているのかも」と、思い思いの意見が交わされました。道行く地域住民とも積極的に会話をし、まちの歴史について学んでいました。川歩きをしながらゴミ拾いをして、川辺の美化にも取り組んでいるとのことでした。

「川班」は、SUP に乗りながら、水面から景色を眺めました。「堤防から見ると、やや濁りを感じられた川も、いざ SUP で川面に立ってみると、水がとても澄んでいる」と参加者間で共有していました。川に落ちているものを拾い上げたり、水質を確かめたり、様々な楽しみ方で、川を進みました。今回3回目となる参加者からは、「陸と川でこんなにも水辺の様子が違うとは思わなかった」という感想が出ました。

最後に団体のメンバーは SUP の普及により、用具も安価になり、メンバーも増えてきた。これからも、まちと水辺のつながりを大事にしながら、今後もメンバーを増やして活動を強化していきたい」と締めくくりました。

